

連載の序

「胃と腸」誌は画像診断学に重心を置いている。すなわち、疾患を見つけ、その疾患を集め、そして解析することにより体系的な診断学を創り上げようとしている。この作業において、特に画像は病変の成り立ちを知るうえで重要な役割を果たしている。一方、最近ではいろいろな画像検査が行われ、その有用性が評価されるようになってきている。すなわち、従来の X 線造影像、通常の内視鏡像に加え、内視鏡検査の領域では超音波内視鏡像、拡大内視鏡像、NBI などの画像強調像、放射線検査の領域でも CT、MRI、PET などが行われている。病理診断においても同様に、マクロ像、HE 染色像に加え、免疫染色像が診断に不可欠になってきている。

本誌では新しい企画として、「胃と腸図譜」を連載することにした。

本企画では、これらの新たに加わった手法による画像も含めて示しながら疾患を解説することにより、最近の画像診断をご覧いただければと考えている。実際には、疾患の特徴を簡潔に記載し、必要な画像をできるだけ提示すること、疾患によっては多彩な形態を呈することから、別の症例の画像も含めて提示して疾患の特徴が明らかになるように意図している。このため、治療・予後は要点のみとした。本企画が臨床の場に役立てられることを願っている。

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院内科

芳野 純治